

## 情報セキュリティインシデントへの対応

山田利英

総務・企画部情報化推進室長

### はじめに

PCやインターネットは、情報社会の進展に伴って情報基盤が整備され、今や電気、ガス、水道等のライフラインと同じように日常的に使われています。一方で、ネットワークやそれに接続されたパソコン等を利用したHP等への改ざん、Winny、WinMXなどのファイル交換ソフトによる著作権等侵害にあたる不正コピーが社会問題となっています。また、本学においても例外なく、保有個人情報の紛失や漏洩、ウイルスやハッカーによる情報改ざん等の不祥事、被害が起こっている事実是否めません。

### 情報リスクマネジメント

法人化後、大学運営において大学の危機管理がますます重要なファクターのひとつとなっています。本学には、法律又は上位規程等の定めにより、自然災害、放射線障害、細菌、交通安全等の環境安全管理、個

人情報漏洩等の個人情報保護管理、医療事故等の病院管理、法令違反等のコンプライアンス推進などの規則が整備され、関係する委員会等で危機管理について検討が行われていますが、上位規程等に特段の定めのない、情報に関する規則等の整備が遅れている状況の中で、コンピュータやネットワーク上などの情報システム及びその上を流通する情報等のセキュリティインシデントが発生した場合、例えば、①コンピュータソフトのライセンス契約を超えてソフトを複製し、損害賠償請求があった場合、②自宅や出張先（海外も含む）へPCやUSBメモリ等を持ち出し、紛失や盗難等の事故に遭った場合、③インターネット上での不正アクセスによる損害賠償請求等、著作権法、不正アクセス防止法などの法令違反及び公序良俗に反する使い方をしたような場合、の損害賠償において、大学の業務として認定されない限り保険の適用外となり、個人

に責任が発生することは言うまでもなく、大学に多大なリスクを負わせる結果となります。このような事態が生じないように、本学においても、組織や個人に対する危機管理や責任体制を規則化する等、情報リスクマネジメント体制の整備が急務となっています。

### 情報セキュリティポリシー

前述したとおり、PCやインターネットなど、近年の情報技術と情報環境は、極めて高度かつ身近なものになっています。このような状況の中で、個人情報や機密情報などの重要な情報が漏洩する事故が多発しています。このような事件、事故が起きてしまった場合、社会通念上、相手に対する信用の失墜だけでなく、イメージダウンとなるほか、損害賠償など甚大なダメージを受けることとなります。こうしたリスクを回避するためには、情報セキュリティポリシーを策定し、それに従った情報セキュリティ規則、事件、事故などが起こった場合の対応手順などを定め、それを適切に運用することが重要となっています。

情報セキュリティポリシーとは、大学が所有する情報資産（情報及び情報を管理する仕組みの総称）の情報セキュリティ対策について、総合的・体系的かつ具体的にとりまとめたもので、大学の情報資産をどの

ような脅威からどのようにして守るのかについて、基本的な考え方並びに情報セキュリティを確保するための体制、組織及び運用を定めたものです。

本学では、平成13年6月、文部科学省からの作成依頼により、当時の情報化推進委員会において「筑波大学情報セキュリティポリシー」が策定（平成14年6月）されていますが、法人化後、見直しについて検討が行われてきましたが、学術情報メディアセンターにおいて、ネットワーク管理委員会で情報インフラに関する技術的な情報セキュリティ対策はあるものの、部局等の情報システム及びそれを利用する職員を含めた情報セキュリティに係わる管理並びに責任体制が整備されていません。

情報化推進室では、平成19年度重点事項に、情報セキュリティを含めた情報リスクマネジメント体制の整備を掲げ、検討を行っています。

### 情報セキュリティインシデントへの対応

では、情報漏洩事件、事故を起こさないためにはどうすればよいのでしょうか。

本学では、情報セキュリティインシデントへの対応について、事ある毎に注意喚起を行ってきました。その内容は以下のとおりです。

- ・ノートPC、USBメモリー、外付けハー

ドディスクなどの持ち運び可能な外部記憶装置、CD、DVDなどのメディアの盗難、紛失などの防止策として、①コンピュータをワイヤーロックで固定する、②ファームウェアに起動パスワードをかける、③ハードディスクにパスワードをかける、④外部へ持ち出す際の管理などの徹底。

- ・ Winny、WinMXなどのファイル交換ソフトの使用の禁止。
- ・ インターネット上からファイルをダウンロードする場合には、信用できないサイトから無償のソフトウェアなどを不用意にダウンロードしない。
- ・ 記憶媒体を破棄する場合には、専用装置で電氣的もしくは磁氣的に記憶領域を破壊、記憶装置を物理的に破壊又は専門業者に依頼する。
- ・ インターネットを利用する場合には、フィッシング、ワンクリック詐欺、偽オンラインショッピングサイトなど怪しいメールをむやみにクリックしない。

以上のことは、個々人が注意すれば防止できることばかりです。

情報化推進室では、今後の対策として、人の役割と情報システムの役割を調和させ部門間の壁を超えて、業務の改善と一体となった情報化を図るため、PCの機種、ソフトウェアなどを統一し、情報に関するリス

クを効果的にコントロールする事務情報基盤システムを構築し、業務・情報システムの最適化に努めるとともに、セキュリティ管理、コンプライアンス管理及び法令遵守を保つ環境の整備に取り組んでいるところです。

#### おわりに

平成19年4月、筑波大学における教育研究の高度化・効率化を図るため、教育研究並びに運営に係わる情報基盤の整備、情報サービスの提供、情報セキュリティの確保と対策等、情報基盤全般に係わる業務の企画立案並びに整備運用を一元的に取り扱う全学情報基盤組織として、「国立大学法人筑波大学情報環境機構」が設置されました。

情報環境機構は、情報環境企画室と総務・企画部情報化推進室及び学術情報メディアセンターとで構成され、今後、同機構において、教育研究の質の向上とそれを支える経営基盤の強化を実現するため、全学の情報環境基盤の整備並びに業務システムを通じた業務改善、情報セキュリティ等について、全学的見地から検討を進めているところです。

(やまだ としえい)